

ミナミトゲヘリカメムシに対する薬剤の効果					
[要約] <u>ミナミトゲヘリカメムシ</u> に対して、果樹カメムシ類の防除薬剤として使用される <u>ネオニコチノイド系薬剤</u> 、 <u>合成ピレスロイド系薬剤</u> 及び <u>有機リン系薬剤</u> の殺虫効果は高く、他の果樹カメムシ類との同時防除が可能である。					
果樹試験場・病害虫研究担当			連絡先	0952-73-2275 kajushiken@pref.saga.lg.jp	
部会名	果 樹	専 門	果樹虫害	対 象	カンキツ

[背景・ねらい]

ミナミトゲヘリカメムシは南方系の害虫である。県内での果実被害は 1992 年にカンキツで初確認され、現在まで継続して発生している。本種は、主に秋季に温州ミカンなどのカンキツの果実を加害し、加害された果実は落果するため減収等の原因となる。

なお、本種は飼育法が確立していないこと及び突発的に発生することなどにより、試験に供試する個体数の確保が困難なため、これまで、殺虫効果の検討はほとんど行われていない。今回、試験に供試する個体が確保できたため、本種に対する果樹カメムシ類防除薬剤の殺虫効果（処理後の死亡虫率）を検定し、防除対策の資料とする。

[成果の内容・特徴]

1. ミナミトゲヘリカメムシに対して、ネオニコチノイド系薬剤のジノテフラン水和剤（商品名：スタークル／アルバリン顆粒水溶剤）の効果発現は早く、殺虫効果は高い。
2. 合成ピレスロイド系薬剤のビフェントリン水和剤（テルスター水和剤）及びシラフルオフェン水和剤（MR. ジョーカー水和剤）並びに有機リン系薬剤の MEP 乳剤（商品名：スミチオン乳剤）の効果発現はやや遅効的であるが、殺虫効果は高い。
3. 供試薬剤の殺虫効果は、雌雄とも同じ傾向である。

[成果の活用面・留意点]

1. 今回の殺虫効果の検定は、2009 年 5 月に果樹試験場内の開花期のカンキツへ飛来した個体を採集して供試した。
2. 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ及びツヤアオカメムシなど）に散布される薬剤でミナミトゲヘリカメムシも同時防除が可能である。

[具体的データ]

表1 ミナミトゲヘリカメムシに対する各種薬剤の殺虫効果(2009)

性別	薬剤名	希釈倍数	供試虫数	死亡虫率			
				1時間	3時間	24時間	48時間
	スタークル顆粒水溶剤	4,000 倍	15 頭	100 %	100 %	100 %	100 %
	テルスター水和剤	2,000	15	0	60	93	93
♂	MR. ジョーカー水和剤	4,000	15	27	73	100	100
	スミチオン乳剤	2,000	15	20	100	100	100
	水処理	—	15	0	0	0	0
	スタークル顆粒水溶剤	4,000	15	100	100	100	100
	テルスター水和剤	2,000	15	33	40	93	100
♀	MR. ジョーカー水和剤	4,000	15	33	73	93	100
	スミチオン乳剤	2,000	15	0	20	100	100
	水処理	—	5	0	0	0	0



写真 カンキツのツボミを吸汁中のミナミトゲヘリカメムシ

[その他]

研究課題名：ミナミトゲヘリカメムシの薬剤感受性

予算区分：国 補 農薬耐性菌検定事業

研究期間：2009年（1975年～）

研究担当者：口木文孝・井手洋一・近藤知弥

発表論文等：口木文孝・井手洋一・近藤知弥 日本応用動物昆虫学会第54回大会(2010年)で講演（予定）

平成21年度 果樹試験場業務年報

「平成22年度病害虫防除のてびき」に内容を記載